

【編集後記】

◇ IRATSUME24号をお届けします。今回はページ数では前号を上まわりましたが、投稿者が4名というちょっと寂しい号になりました。しかも、地元会員は山本一幸氏だけです。私も含めて、但馬のフィールドで活動できるメンバーが減少した現在、どうしても地元在住の会員に期待したくなります。しかし、これは勝手な期待で、地元の方々にとっては迷惑な話かもしれません。当人が自覚しないかぎり、どうしようもない問題なのですから。

手元には出来たばかりの「大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—」と「大阪府野生生物目録」があります。これらを紐解くと、いかにその時々の記録をとどめておくことが重要かがわかります。そのときはそれほど感じなくても、こうした記録は後に重みをもってくるのです。

あえて言います。今、但馬のフィールドで虫の採集・観察を行い、それらを記録に残すことは、とても大切なことです。そのことを自覚し、現状を打破する人が1人でも多く現れてほしいと願います。虫と付き合い始めた頃の気持ちを思い出しましょう。野外では、いい季節が始まっています。

(谷角)

◇ 今号の大半を占める高橋寿郎氏の報文は、氏のご逝去にともないご遺稿となってしまいました。氏の情報収集の幅広さにはただ脱帽するばかりですが、あまりに膨大な資料を基にされていたためか、誤記と思われる箇所もあります。ご当人に確認できないので、我々で可能な限り訂正しましたが、疑問のまま残しているところもあります。こういった今後の研究のベースになる重要な報文は、できるだけ正確な内容で掲載したいと考えております。お気づきの点を是非ご一報ください。

(石田)

◇ 高橋寿郎氏の完成原稿が掲載されるのも、今回が最後となりました。今いちど読み返してみても、若い頃からあらゆる甲虫を採集されていることに改めて驚かされます。ここ数年、「まるで何かに憑かれたように書いておられるな」と思いつつ編集に関わらせてもらいましたが、おそらく自己の内面ではある到達点、自分の仕事の集大成としての目標を明確に持っておられたのでしょう。遺稿のいくつかが未完で終わったことは残念ですが、老後に“ものを考えて書く、まとまった時間”を持つという点では、私たちの多くが理想とする形で人生を終えられたと思います。ご冥福をお祈りします。

(永幡)

IRATSUME No.24

2000年5月25日発行

発行者：但馬むしの会

〒669-6801 兵庫県美方郡温泉町

，黒井和之方

編集者：谷角素彦・石田達也・永幡嘉之